

うしく里山の会 広報誌

# さとやま

(No. 70 2008年12月号)

## NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1  
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail [u\\_satoyama@infoseek.jp](mailto:u_satoyama@infoseek.jp)

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



## 新そばの季節がやってきました

そばプロジェクト 横山 さえ子

### 私たちそば家族

うしく里山秋まつりにて

そばプロジェクトの目的の一つは、自然観察の森の畑に、近隣の農家の畑の景観を作ることです。そばの芽ぶき、成長そして何より真っ白な花の咲きほころぶ様子は、訪れた人の目を楽しませ、写真のよき被写体になっています。二つ目は親子参加で、協力しあいながら作業を行い、ふれあいの場となってもらうことです。刈ったそばを腕いっぱいにかかえて運んだり、小分けしたそば粉を数えて並べたり、子どもたちは大いに手助けをしてくれました。カナヘビ、ダンゴムシ、ワラジムシを見つけてきたり・・・大人は子どもたちの声を聞いたり、様子をながめたりするだけで心がホンワカします。次にはじめての農作業体験の場となることです。全く土にふれたことのない大人の人もいます。そばは蒔いてから収穫まで三ヶ月、うってつけの体験の場です。「楽しかったあ」と言われることが最高の喜びです。

さて、今年のそばの出来は？。堤製粉さんいわく「あまりよくないね」いろいろ推測はできますが、詳しい原因はわかりません。そばは出来、不出来の差の大きい採算性の悪い農産物だそうです。昔は牛久では、小麦を作り、うどんを打ったそうです。そばは近年作りはじめたようで、広い畑をよく目にするようになりました。農家の人のために、よく実って、もつかる農産物になってもらいたいものです。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

プロジェクト  
活動報告

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！



## 里山自然観察隊事業報告

坂根 輝一

### 第四回植物観察会「湿地の植物を見る」

今年七月に次いで、十月二三日（木）再度、小野川流域の水田（六箇所）に湿地植物を訪ねた。湿地植物の季による変遷を見るのが狙いだ。当初予定の十一日（土）が雨天で順延。平日のせい、参加者は五名と少ない。

見渡せば、田は既に収穫が済み、切り株の列が縞模様を描いている。一様に見える田面も状況は様々だ。裁断された藁が一面に撒布された田では、ほとんど何も生えない。降り立って探してみると、敷かれた藁のわずかな隙間にキクモ・ウリクサ・タカサブロウ・ヤナギタデ等が――茎見られる。耕土を鋤き返された田は、観察対象から除外。

そんな中、トラクターのキャタピラーの踏み跡が、一尺ほどの巾で長く伸びている箇所がある。田土がむき出すその線上では、アゼトウガラシ・アゼナ・イボクサ・コナギ・スズメノテツポウ・タウコギ・チョウジタデ・ノミノフスマ・ミズワラビ等が帯状に生えている。植物が成長するために備えている、時空を感知する能力の非凡さを、こんなところで身近に見ることが出来る。

総じて田は、管理法が昔と変わってきたことにより湿地植物が生きるには厳しいようだ。

畦（陸）にはヨメナの青紫やトキワハゼの薄紫、イヌタデの赤紫などで埋め尽くされている所もあったが。

予定の観察地とは別に、隣接した旧耕作法のままと思われる田に踏み入ると、途端にその豊さに驚かされる。「わあ、ここは賑やかだ」との声が上がる。さまざまな植物がひしめいている。ひっくり返えした標本箱のようだ。足の踏み場もない。みな小さい。――〇〇の世界。よく見ようと、みんなながみ込む、そしてしゃがむ、ついには這いつくばらんばかりだ。まるで不思議の国に降り立った気分だ。ルーベで覗く驚異の一面だ。

その中のひとつ「ミズネコノオ」を報告しよう。猫が草むらで尻尾を立てているような、そんな淡紅白色の花穂をいくつか付けて、あちこちに。昔は水田の稲刈り後に数多く見られたという、だが多くの水草と共に姿を消したこの「水猫の尾」。これがあるのは、農薬の使用を出来るだけ控えてきた証拠であるという。そんな田がここに一面あった。このいみじくも維持されてきたささやかな環境が、更に一つと加えられてくる事を願うばかりだ。



ミズネコノオ 08.10.23



## 第四回植物ガイド「里山の草木の果実を見る」

十一月八日（土）、一般参加者四名を含め総勢十一名。城中地区に草木の果実を訪ねた。

先ず、渡辺泰さんから果実の講義。主な果実十二種の様々な形や成りを知る。

幾つかの標本を手にとっての解説。なかなか複雑で厄介。被子と裸子、子房と胚珠、果実と種子、雌雄と受精、成長と成熟。それぞれが互いにこんがらかって、俄かには果実が思い描けそうにない。



シロヤマブキの実の黒い光沢。ソシンロウバイは素焼きの酒トックリ（瘦果）をいくつも提げて酔狂の体。ミカンがたわわだ。

一転、林縁では、チチミザサ・アシボソの微小

「兎も角も見るとしからず」で、草木の果実探索は、旧家の庭や垣根から始める。クログネモチ・シロダモ・イヌツゲと、いきなり雌雄異株が見舞う。カキは秋色、ナンテンの赤が眩しい。

果実（穎果）に眼を凝らす。城中街道では下る斜面に万両（マンリヨウ）が。藪に入ると百両（カラチバナ）が赤く佇む。十両（ヤブコウジ）は何処？ ウドの黒い粒々。ノササゲは淡紫に黒い瞳（豆果）。ムラサキシキブの実が美しい。しばし立ち止まりみんなでムクノキの核果を口に含む。遠い日に会った淡い甘さ……。正に里の秋でした。



### 巨木リサーチ事業報告

写真 G 宮澤 靖

#### 皇居東御苑研修

今年四月から里山の会「巨木リサーチ事業」写真グループの活動に参加させていただきました。従来、写材を求めて遠方まで出歩くことが多かったのですが、身近なところでも被写体を探して見ようと考えていた矢先に、たまたま出合った本会に入会したという次第です。活動を通じて代表の渡辺さんをはじめ皆さんの真摯で熱意ある調査と親睦の輪に次第に感化されて来て、会が掲げる目的からすると入会動機が不純だったかなと反省しています。

十月二十五日の活動では、皇居東御苑研修に参加しました。市役所前から、借り上げバスに乗りまして出発、気になる渋滞にも遭遇せず順調に現地着。皇居東御苑は江戸城のあったところで、同心番所、百人番所、一の丸庭園、天守閣跡などがあり、昭和四十三年から一般に公開されています。



周りはビル群 08.10.25

出入り門は三ヶ所あり、この日は平川門から入門しました。門を入る時「入門証」をもらい帰りは出る門で返却します。さて、平川門は江戸城の裏門、大奥に最も近く位置していて当時は大奥女中の通用門だったとか。門に続くゆるい坂道は「梅林坂」の名のとおり両脇に梅林があり季節の頃は梅の花の香りを楽しめそう。この先を左に折れたところに都道府県の木が植えられた一帯があります。当県の梅の木も確かにあることを（何故か二本）しっかりと見て来ました。

管理の行き届いた御苑の中で異色に感じた所が「一の丸雑木林」一帯です。ここは昭和天皇の意

図を受けて武蔵野のたたずまいを留めるよう造成されたと説明されています。造成の際には樹木の移植だけでなく武蔵野の雑木林の土壌をも移したという。そのため土壌中の種子や昆虫なども運ばれて来て定着し、かん木、下草、昆虫なども含めて武蔵野の雑木林らしい構造を持った自然が復元されているということです。説明では羽のない昆虫「ナナフシ」も定着しているとありました。自然林の雰囲気も横溢し何故かホッとさせられる空間です。

雑木林でにわか森林浴を楽しんだあと、天守閣跡、富士見多門、石室などの遺構を周りすっかり往時の雰囲気浸りから、本丸跡へ休憩所を抜けて展望台に進みました。その展望台からの光景は実に印象的です。眼前に広がるのは写真のような林立する高層ビル群・・・都心の中心地に居る!!という現実引き戻される瞬間でした。

昼食後は、皇居東御苑から皇居前広場を散策しながら都立日比谷公園まで足を延ばしました。何度か訪れた所ですが、樹木ウォッチという視点で見ると発見多々。全体が洋風庭園であることが東御苑を観た後では強く感じられました。

この日は終日穏やかな天候に恵まれて予定通りの研修を終え、心地よい疲労感とともに帰路に着くことが出来ました。なお、今回の研修には市の緑化推進課から山口課長と柳下氏も参加して頂きました。ご多忙の中ありがとうございました。



雑木林応援隊事業報告

雨宮 廣之

炭焼きのシーズン

十一月に入りやっと炭焼きのシーズンになりました。

以前にも報告致しましたが、前回と前々回の二回の炭焼きは、空気口が詰まった事が一回、窯に穴が開いていて、空気が入ってしまつた事が一回で、うまく焼くことが出来ず、悔しい思いをしました。炭焼きをはじめて十年以上立つのに、本当に珍しい事でした。ここで心機一転気持ちを入れ替えて、初心に返る気持ちでチェックを怠りなく、心を込めて焼いたつもりでしたので、当然結果が気になりました。写真を添付致しますが見事に焼けています。燃えやすい松の木も入れてみたのですが、これも見事に炭になっていきます。大成功と言えるでしょう。まずは安心です。

今回の炭は竹炭を予定していました。そのため、炭焼き前の活動日はムジナでの竹材確保を兼ねての竹林整備とし、初日に窯の炭出し、その間に竹材の切断・割り・節取りを行います。

まず割った竹材を窯の下に敷き詰め、その上に丸のままの竹材を縦に積んで行くのですが、これは炭になった時に自重で潰れることを防ぐためです。この作業を午前中に終え、十二時には

一同窯の前に揃って、今シーズンの安全作業と良質な炭が取れることを祈願しました。「そのうち誰か、祝詞を勉強する必要があるね・・・」と話

しながら火入れを行い、本格的な炭焼きに入ります。竹の場合は木炭と違い、短期間に焼く事ができます。それでも初日の夕方は、夜通し火が持つように大きな薪をおいて夜伽とし、二日目は終日薪を炊き、二日目の夕方には、焚き口を煉瓦一個分に絞りました。これは、温度が上がった内部に空気を入れて練らす作業で、翌日には、窯を閉めるための前作業です。翌日には、煙突からの煙も透明になり、午前中に窯を閉める事が出来ました。どんな出来具合か今月末に開けるまで気になるところです。

ところで応援隊の女性メンバーですが、男性陣よりも技術力があり、ツルカゴ編み、草木染めの一般公開時には、いつも多数の参加者があるので



完成した炭



すが、炭焼きとなるとあまり出番が有りません。ところが、今回岩手県で、「南部炭染め」と言う染め物を見つけました。調べると炭を使って染める事は、昔から有る様ですが、この炭染めの風合いが何とも言えず良いのです。一度試しにやってみたいと思っっているのですが、どうでしょうか。



### じゃがいもプロジェクト事業報告 本多 昭子

#### サツマイモ、里芋収穫祭(寄稿)

七月に行われた収穫祭の第二弾 サツマイモと里芋の収穫祭が十一月十五日に行われました。一般参加者の方々も十数組参加され、賑やかな収穫祭が始まりました。

我が子が二人とも風邪を引いてしまい、今回は私一人で参加しましたので、少し残念でしたが、その分収穫の他に不用となった葉、茎、蔓の処理や里芋の根っこを取る作業などお手伝いでき楽しませてもらいました。一人でやれば面倒な作業も皆でやれば楽しく思えます。

サツマイモを収穫しているとカエルがいつぱい出てきて、子供達はサツマイモ以上に夢中になっている姿が見られました。里芋を収穫している時にはネズミが(！)この時は大人も興奮していました。親子のネズミは相当驚いたらしく親ネズミは走り回って林へ逃げてしまい、しがみついで

一緒に逃げた子ネズミもいれば、離ればなれになつてしまった子ネズミもいてかわいそうでした。たくさん取れたお芋は、お土産用と来年度の種芋になりました。プロジェクトの方々が用意してくれた食事の里芋は芋汁に、サツマイモは焼き芋に、その他に漬け物、天麩羅、茹でた落花生なども用意して下さりとても美味しい食事でした。とても楽しかった収穫祭、こうして無事に行われたのもプロジェクトの方々のおかげです。感謝しつつ、お土産でいただいたお芋を料理し食そうと思います。

(舟木 香)



収穫祭に参加した皆さん 08.11.15



### アヤマ受託事業報告

成井 秀喜

#### アヤマ園今年の総括

秋の空は澄みきり暑くもなく寒くもなく心地よい季節です。花の終わりを見届けて、何かふーと今年の花も終つてしまい、花の命は短かったなあとと思うその時から、あやめプロジェクトメンバーの戦いが始まります。約三ヶ月間「除草作業」「株分け作業」「畝づくり」「植付作業」等など、特に今年度は三年に一回実施される株分け作業なので、メンバーには例年以上の負担がかかったと思います。作業の期間中は作業の進行を見ながら必死で取り組みようやく終わりました。

振り返ってみれば、夏の暑い炎天下時の作業、水分補給をしながら頑張りました。事故もなく良くぞ乗り切ってきました。本当にご苦勞様でした。仕上がった畝はまるで作品でも見ているようです。それぞれの人たちが知恵を出し合い、畝の形状にあわせSカーブありV形スロープ形等、まるで自然が作り出す造形品です。この作品を作り出すため、メンバーの男性たちは子どもの頃を思い出し、少年のように夢中で黙々と作品完成に取り組んでいました。畝づくりの作品を見て、「あの部分は誰がやって、この部分は誰がやった」批評しあいながらお互いに感動を分かち合ったことでしょう。

畝作りの一ブロックが終るたびに気も心もリ



芸術的な畝・きれいなのも半月

すぐに雑草に覆われる

08.10.16 坂

フレッシュで疲れも癒されます。  
女性陣は畝から抜き取った株を小区分にし、再生株として一本一本丁寧に仕上げ、畝づくりの終わった部分に植えつけ作業を実施していきますが、これまた大変な作業です。特に子供達を育てた経緯から、花菖蒲にかけける愛情も同様と考え、各畝に植付けされる再生株は、我が子同様に個性ある花に、またたくましく咲いてくれることを願いつつ植付けされていることでしょう。  
これから来年に向けどの畝株にも、同様に草を取り肥料をやり水をやり、色とりどりの花が咲いてくれること期待し、また「観光アヤマ園」に来る人々を喜ばせてくれると思います。メンバー一

同、畝と株の再生で「観光アヤマ園」の新装開店を待ちます。水辺の生物として子供達に人気のある「めだか」達は、なれた畝から追い出され用水溝へ旅に出され辛い日々だったでしょう。「ごめんなさいね」来春には新装開店になった畝に水が満々と「めだか」達は泳ぎまわり「めだかの学校」も開校します。「株分け」作業時に仕分けされた余分な株は、多量のゴミとして処分されますが、今後の課題として有効活用し来園される方に提供しても良いのではと思います。



そばプロジェクト事業報告

横山 さえ子

## うしく里山秋祭り「そば打ち」

十月四日朝、本部から「十六人目を受付けていいですか。親子なんです」との電話をつけ、「はい」と返事をした。すぐに人数分の材料の準備に走り回った。運営委員会からは「新そば粉」でと指示されていた。森の畑で育てている「そば」は、花の最盛期で粉にはできない。JA茎崎農産物販売所に行き「今年の粉ですか」「いいえ」。小町の館に問合せをすると「今、花が咲いているところですよ。粉は十一月下旬ころです」。ヤにもあるが蛍光灯の下に置きっぱなし。とうていおいしい「そば」が打てるとは思えない。JA茎崎では、昨年の実だが、保冷してあり必要分を製粉してくれるとのこと。ただし、値段は二・三割高い。こ

れにする。  
当日までに、かえし・ダシを作っておく。せつかくの手打ちそばを市販のつゆで食べるなんてもったいない。天ぷらも用意した。



うしく里山秋まつり

そば打ち体験 08.10.04

当日は十人の参加。アレレ、お休みなのはこまる！。材料は十六人分用意したのに。（案の定赤字になった）

子ども四人は、親と一緒にいたり、会員に手伝ってもらったり、小さい体全体で打つ。「粘土のようだね」などと話しながら・・・。昨年はあきて泣きだした子もいたが、今回は小学生・中学生だったので、伸して切るまで一生懸命だった。子ど



もの集中力に目をみはった。

全ての材料を打ってもらったり、「そばがき」にしたり…。一人が二回から三回打った。当然二回目は時間も短縮、スムーズに打っていた。そして「もつと食べて下さい」「もつ食べられない」というまで食べてもらった。ゆでたものだが、一人前位持ち帰ってもらった。薬味もネギ・ユズ・ワサビと様々。秋山さんの作った「アケビの肉詰め揚げ」も珍味で、初めての人も多く好評。千五百円の参加費は高いとの声もあったが、十分満足してもらった。片付け（借用したそば打ち道具などを車に積む。移動したテーブルをもとにもどすなど・・・）も参加者が協力してくれ、けが人もなく十三時に終了した。

### 運営委員会からのお知らせ

一、十一月三日、県立図書館で開催された、環境省委託「温暖化対策」一村一品 知恵の環づくり「事業・CO<sub>2</sub>削減の環」いばらき うしく里山の会として取り組み発表し、特別賞（地域緑化賞）を受賞しました。  
二、会の中期計画を検討中です。

平成二十一年は、うしく里山の会が法人格を取得して五周年、牛久自然観察の森が設立されてから二〇周年になります。この記念すべき年を控えて、これまで歩んできた道を振り返り、また、将来どうあるべきかを検討中です。検討結果は後日報告します。



### 牛久自然観察の森報告

齋藤 孝

### 移動博物館サポートボランティア募集

今年も茨城県自然博物館から移動博物館がやってきます。牛久市内小学校の授業活用日が十六日火曜日から十九日金曜日まで、一般公開日が二十日土曜日と二十一日日曜日となります。この期間中、昨年同様サポートボランティアを募集いたします。ボランティア向けの内覧会は十五日月曜日の夕方を予定しています。募集の詳細は折込のチラシをご覧ください。ご協力、ご参加をお待ちしています（担当/金久）

### 森はみんなの宝物！

### 会員の皆さんのパワーを森へ！

### 『観察の森 もつといい場所増やし隊』

### 第6回参加者募集

牛久自然観察の森内の野外施設の改修作業やベンチ作りなどのボランティア活動を月一回の頻度で行う「観察の森 もつといい場所増やし隊」第6回の活動は園内の竹柵と木戸補修です。予約不要ですので、当日お時間のある方、ご参加をお待ちしています。

【活動日】十二月十二日金曜日 午後一時～三時  
(雨天中止)

持ち物) 軍手、タオル、長靴、帽子、飲み物  
牛久自然観察の森029-874-6600 (担当/齋藤)

今月の古木・希少木  
No.20 ヒイラギ



ヒイラギの葉 上:若木・下:老木

07.11.17 渡辺

入り口に飾る風習がありま  
す。  
(石川満夫)

モクセイ科モクセイ属の常緑小高木で山地に生え、高さ四〜八mになります。本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄、台湾に分布します。雌雄異株。幹は直立して多数に枝が分かれます。葉は楕円形から卵状楕円形で、対生し、厚くて硬く、表面には光沢があります。若木は縁に鋭いギザギザがあり、先はさわると痛い刺状になっています。老木はギザギザがなくなり、縁はなめらかになります。花は十一月頃葉のわきに束になって咲き、小さく白色でよい香りがあります。果実は長さ十二〜十五mmの楕円形で、翌年の七月頃黒紫色に熟します。

牛久市では庭木や生垣に多く用いられています。名前は葉のギザギザに触れるとひりひり痛む（古語ひびらく）ので、この様な名前がついたと言われています。昔からヒイラギの葉の鋭い鋸歯が、魔よけになると信じられて屋敷の入口に植えたり、節分にイワシの頭とヒイラギの枝を家の出入り口に飾る風習があります。

## 12月の里山カレンダー

活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

| 日  | 月  | 火                                   | 水           | 木  | 金  | 土  |
|--|--|-------------------------------------|-------------|--|----|--|
|  | 1<br>(休園日)<br>アヤマ園(受)<br>8:00アヤマ園P                   | 2<br>雑木林応援隊(畑)<br>9:30畑             | 3           | 4<br>アヤマ園(受)<br>8:00アヤマ園P<br>出前講座<br>市立幼稚園 | 5  | 6<br>そば 9:00畑<br><br>(会報等原稿〆切)                 |
| 7<br>巨木リサーチ(受)<br>10:00<br>市ホランティアセンター1F                             | 8<br>(休園日)<br>アヤマ園(受)<br>8:00アヤマ園P<br>じゃがいも<br>9:00畑 | 9<br>雑木林応援隊(畑)<br>9:30畑             | 10          | 11<br>アヤマ園(受)<br>8:00アヤマ園P                 | 12 | 13<br>里山自然観察隊<br>9:00森P<br>エコアップ 作戦<br>13:00NC |
| 14<br>運営委員会9:00NC<br>理事会11:00NC<br>エコアップ13:00NC<br>雑木林応援隊<br>9:00ムジナ | 15<br>(休園日)<br>アヤマ園(受)<br>8:00アヤマ園P                  | 16<br>雑木林応援隊(畑)<br>9:30畑            | 17          | 18<br>アヤマ園(受)<br>8:00アヤマ園P                 | 19 | 20   |
| 21   | 22<br>(休園日)<br>アヤマ園(受)<br>8:00アヤマ園P                  | 23<br>(天皇誕生日)<br>雑木林応援隊(畑)<br>9:30畑 | 24<br>(休園日) | 25<br>会報発送<br>13:00NC                      | 26 | 27   |
| 28<br>雑木林応援隊<br>9:00炭小屋  | 29<br>(休園日)  | 30<br>(休園日)<br>雑木林応援隊(畑)<br>9:30畑   | 31<br>(休園日) |  |    |  |

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑, コジユケイ:観察の森内コジユケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎, アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (休園日):観察の森休園日

## 編集後記

「うさぎ追いかの山、コブナ釣りしかの川…」  
先日、あるサークルで笠間方面にウォーキングに行き、素晴らしい里山の風景に出会った。田んぼは、休耕田がなく全て耕作・手入れされ、小川や畝は耕地整理されることなく、見事な曲線を描き、田を取巻く小高い丘や土手は草がきれいに刈り込まれ、まるで芝生の原っぱのようだ。そして山裾には黄色く実のついた柿の木。子供の頃、「ザリガニ」や「どじょう」また小川では「タナゴ」を釣って遊んでいた頃が見事よみがえってきた。

こんな感動を地元のお年寄りの方に話をするので、一年をとつたら、こんな所に住めないよ！車が運転できなくて買物はどうするんだい！医者も遠くて風邪も引けないね。」

私たちは里山の良さを求めながらも、心のどこかには街の文化生活を必要としているのではないだろうか。

何年前かに、安曇野に行ったときも同じようなことがあった。「こんなに緑や水の豊富な、素晴らしい自然の中に住めていいですね」と話したら、「あんだ達は、ここに一週間も住めないよ！たまに来るからいいと思うだけだよ」

賑やかな便利な街、開発された環境の中に何不由ることなく住んでいるからこそ、私たちは敢えて自然をもとめている。開発された街と、静かな自然を同時に追うことは難しいかも知れない。しかし、身近な小さな自然を守り続けることは、私たち「うしく里山の会」に与えられたテーマであり、それを実行することはできる。さあ、今日も自然を見つめて歩こう！

(佐藤輝雄記)

## 広報委員会からのお知らせ

次号12月号の印刷発送は12月25日(木)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしくお願ひいたします。